

共生

奈良県生協連

2013年4月

NO.88

万葉のいぶきを求めて—(53)



白毫寺の五色椿

あしひきの ^{やつを}八峰の椿 つらつらに 見^あとも飽かめや 植えてける君
大^{おほ}伴^{とも}家^{やか}持^{もち}

「幾重もの、峰々に咲く椿は、いくら見ても飽くことがない。これを植えた貴方は、本当にこの椿のようですね」この歌には「勝宝9年3月4日に大原真人今城の宅にして宴せる歌一首」との題がついています。大伴家持と今城は従兄弟の関係にあり、また勝宝7年5月には家持の宅での宴に今城が招かれています。従兄弟の関係、わずか2年足らずの間にお互いに宴に招待しあう親しい相手に、齒の浮くようなほめ方の歌ですが、天平貴族にとって、いかに相手を上手に褒めあげるかは、欠かすことの出来ない素養の一つでした。

ツバキは一般的にはヤブツバキの事ですが、用途の広い椿は早くから植えられ、観賞用としても多くの品種が作られました。一説には800種もあると言われています。

ちなみに、次の三カ所の椿は、奈良の三名椿として有名です。東大寺開山堂の「のりこぼし」、白毫寺の「五色椿」、戦国武将、筒井順慶の菩提所伝香寺の「散り椿」です。

2013年度 奈良県生協連の取り組み

昨年の国際協同組合理念では、協同組合の理念の共有と普及に力を入れました。奈良県生協連は今年も引き続き協同組合のたすけあいの心をひろげ、会員生協の力を合わせてともに役立つ取り組みを展開していきます。世界では紛争や飢餓が絶えず、国内では東日本大震災の復興が進んでいません。人と人との絆の大切さが実感されている今、つながりをつよめて、私たちの住む奈良県が少しでも住みよい地域になるように、行政、関連諸団体の皆様のお力も借りながら、以下の取り組みをすすめていきます。

5つの 重点テーマ

- (1) 協同組合の理念を共有し地域社会に協同と助け合いの実践を広げます
- (2) 暮らしと社会のさまざまな問題を学びあい考えあえる場をつくります
- (3) ネットワークの力によって地域消費者の学ぶ力を高めます
- (4) よりよい奈良の明日のために県南部地域活性化の活動に参加します
- (5) 会員の活動支援と連帯を強めます

具体的課題

1 地域社会における協同とたすけあいの実践

- ① 東日本大震災と紀伊半島大水害の復興支援・活動に継続的にかかわります。
- ② 理念の共有と広報を強めます。



2 暮らし諸課題の情報発信と意見表明

- ① 核兵器廃絶を継続テーマにピースアクション in ならを開催します。
- ② 再生可能エネルギーについて県内外の諸団体と連携しながら学びます。
- ③ 食の安全、食料と農業、税と社会保障、医療と介護、憲法問題など多岐にわたる重要な社会問題について学習の場を設定します。

3 消費者政策と消費者教育の活動推進

- ① 新しい奈良の消費者ネットワーク「なら消費者ねっと」の事務局を担います
- ② 消費者政策にかかわる活動支援と意見表明をすすめます

4 県南部地域活性化の活動への参加

- ① 昨年に引き続き「復興、地域活性化と生協の役割」をテーマに、県南部地域活性化に貢献できる活動に取り組みます
- ② 国際水協力年にちなみ、小水力発電等の自然エネルギーや健康づくりなどをテーマに交流企画を提案します。

5 会員の活動支援と相互連帯

- ① 医療福祉生協の事業を支援します。
- ② 大学部会の活動を通し大学生協の運営を支援します。
- ③ 会員研修を実施します。
- ④ 業態や事業の枠を超えたつながりを工夫します。

6 地域諸団体と行政とのパートナーシップ

- ① 食の安全懇談会、生協行政協議会、なら消費者ねっとの活動を通し奈良県行政との連携と意見交換をすすめます。
- ② 防災、平和、消費者問題、環境・エネルギー、健康づくり等の企画を通し、市町村行政との関係づくりをすすめます。また地域諸団体との連携を強めます。



もくじ

2013年度奈良県生協連の取り組み・・・1	おじゃましました・労済生協・・・6
ピースアクション in なら・・・2	環境のページ・・・7
なら消費者ねっと発足・・・3	食の安全・・・8
奈良県医療福祉生協第1回創立祭・・・4	広がる協同・暮らし輪・・・9
おじゃましました・奈良女子大生協・・・5	ご案内・未来をつむぐシンポジウム・・・10

ピースアクション in ならを開催しました

おしえて、リーパーさん!!

世界の平和と核兵器

～ヒロシマ、日本、そして奈良から～



3月16日、奈良商工会議所で今年度のピースアクションを開催しました。核兵器廃絶を世界に発信する「平和市長会議」の事務局でもある（公財）広島平和文化センター理事長のスティーブン・リーパーさんを講師に迎え、核兵器をめぐる最新の国際情勢を教えてくださいました。今世界では新たな動きが始まっているというリーパーさんの話に60名を超える参加者は熱心に耳を傾けました。今回は奈良県と奈良市の後援をいただき、奈良県消費・生活安全課森藤勝彦課長と小城利重斑鳩町長のご臨席賜りました。また17の市町村からは応援メッセージが寄せられました。

講演の概要は以下の通り

戦争文化から平和文化へ

一部の人だけが得をして勝ち負けばかりを考える「戦争文化」を卒業して、だれもが幸せになることを願う「平和文化」への転換が必要。生協は平和文化そのものです。

ビッグニュース!

新たな動きのはじまり

核保有国の拒否権があるため国連では核兵器禁止条約は絶望視されていました。ところが3月にオスロで会議があり非核国のみによる条約をつくらうという動きが始まりました。とても感動的で良いニュースです。対人地雷禁止条約もクラスター爆弾禁止条約も非保有国により実現し、保有国に圧力をかけ成果をあげました。今度は核兵器です。人類を危機から守るにはもう待ったなしです。核保有国の勝ち手はもう許さないという気運で盛り上がりました。

日本の態度がカギとなります

昨年5月ウィーンの会議で、核兵器の非人道性を宣言した16か国の決議に日本は署名しませんでした。毎回日本は国連では核兵器廃絶決議を提出しているのにこれは意外でした。この宣言への賛同国が10月の国連総会では35に、3月のオスロでは126か国とどんどん増えています。この流れを強くするためには、日本のスタンスが重要です。産業界の思惑で政治は動きますが同時に市民の声も無視できません。市民から声をあげていくことが大切です。

われわれのくらしから変えなくては

永遠の成長と借金によって成り立っているのが戦争文化による今の仕組みです。いつか崩壊します。資源争奪をめぐる人類は本当にとんでもない殺し合いの危機に直面しています。それを止めるのは核兵器禁止条約とわれわれの生き方です。資源を使わないようにしたり自給することが争いを回避し平和につながります。今がその時です。

斑鳩町長の小城利重さん

リーパーさんには長崎でもお会いしました。平和を考える場を通じて一期一会の出会いをうれしく思います。節電や大気汚染物質の飛散など何かと課題が多い環境になっています。ともにがんばりたいと思います。



奈良 YMCA 元総主事の藤井辰男さん

おはなしを聴いて、私たちが何とかしなければと、とても心が動きます。この気持ちをうねりに変えて、伝え広げていきましょう。



参加者からのひとことトーク

奈良教育大学の松本顕良さん

ピースナウの活動で沖縄に行き自分が大きく変わりました。教育者を目指すものとして責任の重さを感じます。しっかりと他の仲間や次の世代に伝えていこうと思います。



地域でつくろう 消費者の力!!

2月9日 なら消費者ねっとが発足

消費者被害のない安全で安心して暮らせるまちづくりを目的に設立準備をすすめられてきた、県内消費者、専門家行政関係者などの連携によるネットワーク「なら消費者ねっと」が87人の参加者のもと、2月9日発足しました。設立記念シンポジウムでは、阿南消費者庁長官による特別報告と、地域ですすめる消費者教育についての基調講演、会員による活動報告などがあり、参加者からこれからの取り組みに期待が寄せられました。

第1部 設立総会

- 呼びかけ人代表の北條正崇弁護士が設立の意義を説明、来賓を代表して奈良県くらし創造部影山清部長が県内に消費者ネットワークができることへ期待の言葉を話されました。
- 設立経過や規約、初年度の活動計画と予算案など全ての議案が拍手で確認されました。これから取り組むのは①消費者への啓発や消費者教育②消費者行政の充実強化に関する取り組みや消費者問題に関わる提言等③消費者問題に関わる調査・研究等④消費者団体の連携や交流⑤消費者の権利の保護の5つの活動です。
- 代表には北條正崇氏が、また副代表に弁護士の小泉隆志氏、消費生活相談員の米田捷子氏、司法書士の前川一彦氏を含む15人の運営委員と、監事に地婦連会長の中島祐子氏と弁護士の永井宏明氏が選任されました。また奈良県生協連が事務局を担い、辻由子専務理事が事務局長を務めることになりました。

北條正崇代表

影山清部長



- 3月15日までの個人会員登録は69人となり、団体会員は9団体です。団体会員は次の通り（順不同）。
一般社団法人奈良県社会福祉士会、公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート奈良支部、グループあんあん、消費者問題研究会こむらいふ奈良、市民生活協同組合ならコープ、生活協同組合コープ自然派奈良、生活クラブ生活協同組合、奈良県医療福祉生活協同組合、奈良県生活協同組合連合会

第2部 記念シンポジウム

●特別報告「安心の地域コミュニティづくりをともに」 消費者庁長官 阿南 久氏

全国にこうしたネットワークの取り組みは非常に重要であるとして、消費者庁との連携を呼びかけられました。また情報発信や現場に出かけ「伝え・つなげ・広げる」に力を入れていること、最新の法改正や消費者庁の取り組みに触れ、「くらしのすべてが消費者課題」として共感と協同のコミュニティづくりを提案されました。



●基調講演「消費者市民社会の実現に向けて」 柿野 成美 氏（公益財団法人消費者教育支援センター主任研究員）



これから目指すべき消費者市民社会の姿や、8月に成立した消費者教育推進法の概要、これをすすめるための活動のヒントなどについて、海外や国内の具体的事例を用いてお話されました。消費者市民社会とは、一人一人の消費者が自分のことだけでなく、地球環境にまで思いをはせ行動することを意味しているとし、その重要性を語られました。

また消費者教育の体系イメージマップを使い、世代やライフステージに合わせて課題を設定し効果的に進めるとよいことを説明されました。高齢者にも若い世代にもそれぞれに情報発信と学習の場を提供していきたい「なら消費者ねっと」の今後の活動に大いに参考となる中身でした。

第3回 奈良県内市町村 消費者行政活性化状況調査報告

準備会議の行政しらべチームが実施したアンケートと訪問ヒアリングの結果を同チームメンバーの中野素子さんが報告しました。広域連携により全自治体に相談窓口設置が実現したことや、活性化基金の活用で啓発が進んだ一方で、住民との参加や交流など消費者と消費者団体の育成についてが課題であることなどが紹介されました。

これからの取り組みにむけて



グループあんあんの啓発コント

3名の会員から各団体の取り組みや今後の課題などについて報告がありました。

- 消費生活相談員の現場から
奈良県相談員の中村恭子さん
- 啓発コント実演と報告
グループあんあんと垣田博子さん
- 成年後見センター・リーガルサポート
奈良支部の活動について
司法書士の瀬尾知里さん

「国際協同組合年～その成果とこれからの課題」

北川 太一先生 講演会 2012年度役職員研修

3月7日（木）奈良県文化会館多目的ホールで、「国際協同組合年～その成果とこれからの課題」というテーマで今年度の会員生協役職員研修会を開催しました。講師の北川太一先生は福井県立大学経済学部教授で農業経済学をご専門に研究されています。

北川先生はまず、「10億人以上の人々が栄養不足の一方で1000万トンを廃棄する先進国もあるという食料生産の世界的な構造矛盾や経済大不況の中では協同組合の役割発揮が期待されている」とし、「よりよい社会を築く」ための課題についてお話しされました。国内では市場原理主義の過度の信奉や東日本大震災以降の急進的な構造改革の動きなどの現状に触れ、その限界について言及されました。私たちが進むべき方向性、目指すべき経済と社会システムをめぐる国民的合意ははかられておらず、新自由主義が進行するなか企業倫理の欠如や格差問題が発生しています。こうした市場の失敗を克服する仕組みとしての協同組合は「多様な個人の参加で私益・共益・公益の循環関係を作り」「人と人との互惠関係に基づく活動を大切に非貨幣経済に光を当て」「思いや願いが詰まったモノとコミュニケーションでつながりをつくっていく」ことが重要と、これからの課題について示されました。



地方消費者グループフォーラム（近畿ブロック）

2月6日、京都市のキャンパスプラザ京都で「地方消費者グループ・フォーラム」が開催されました（主催：近畿ブロック実行委員会、消費者庁）。今年度は「広げよう連携の輪～消費者問題の解決力を地域から～」がテーマ。近畿ブロック各地の64の団体から167名が参加し、各地の取り組み報告と活発な意見交換と交流を行いました。全体会では消費者庁長官挨拶と同庁の報告のあと、団体報告「京都における行政と消費者団体間の連携関係について」が京都消費者力向上委員会からありました。また分科会では「第3回奈良県市町村消費者行政活性化状況調査のまとめ」を辻奈良県生協連専務理事が報告しました。別会場の「壁新聞交流会」には地域で活動する団体のポスターなどが展示され、お互いに参考になる取り組みとしてにぎわいました。



これからも 健康の輪をひろげます！

奈良県医療福祉生協が1周年の創立祭

3月31日、奈良県医療福祉生協が創立1周年を迎え、みみなし診療所で創立記念祭を開催しました。

健康チェックコーナーでは血圧チェックと体脂肪チェック、骨密度測定、また体力測定コーナーでは握力と静的バランス（開眼片足立ち）の測定、そして健康体操があり、医療生協ならではの充実したメニューが好評で、参加者は自身の健康への関心を高めました。

模擬店やフリーマーケット、輪投げやおかしつりなどの子どもコーナーもあり、あいにくの雨模様にもかかわらず、会場のあちこちで楽しみながら交流がすすみ、のべ500人の参加になりました。今年度末で組合員数は2,818人、目標にしていた出資金5,000万円を超えました。新年度以降もさらに健康づくりの輪が広がることが期待されます。創立前から今日までかかってきた組合員の皆さんは、この日一日集いながら、この一年のがんばりと成果、そしてあたたかい人との出会いをかみしめあいました。



奈良女子大生協におじゃましました

生協は生活者としての自立を支援します！

2013年3月12日（火）入学者選抜学力試験（後期日程）が行われ、その保護者控室にて、奈良女子大生協の学生委員（WINDYと名付けています）が保護者向けに生協の取組紹介や説明会を開催するとお聞きし、取材に伺いました。

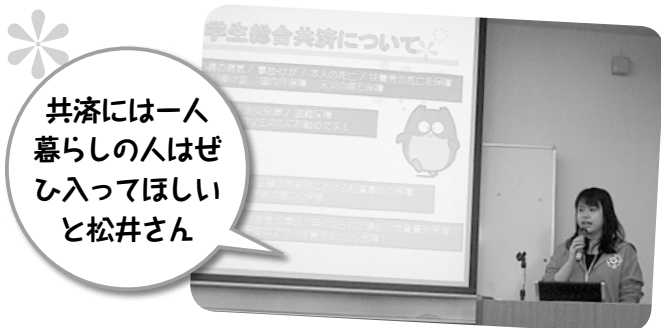
会場は試験会場の近くの奈良女子大コラボレーションセンターの1会場。遠くから付き添いで来られた保護者の控室で、待ち時間を利用して説明会が開催されました。本来は合格された方への説明会ですが後期入試は入学までの期日が迫っていることもあり、合格決定前に開催されています。



入試（後期）が行われました。
奈良女子大正門



WINDYと
生協職員が
勢揃い



共済には一人暮らしの人はぜひ入ってほしいと松井さん

保護者説明会プログラム (9:30~11:00)

- ◎生協って？
住まいのこと 下宿探し
奈良女生は生協が好き(アンケート結果から)
友達作り、学生を取り巻くリスク、共済
- ◎新入学に備えて カタログ(生活必需品)
- ◎購買書籍部 パソコン、布団
- ◎食堂 野菜たっぷりの惣菜多数、生協カフェ
- ◎WINDY (学生委員)の報告
寮、下宿、自宅生、バイトについて
受講相談(時間割の相談)

生協は、大学の“よろずや”さん。何でも相談を

最初に生協の加藤専務から、「生協は福利厚生を大学側から任されている。運営にもかかわることが大切」など生協の意義や事業内容についての説明がありました。共済の特徴は「学生のため、仲間のため、お互いのため」。保護者のみなさんは緊張した面持ちで聞いておられましたが、その後、学生委員（WINDY）が説明すると思わず緊張がほぐれます。ご自分の子どもと同じ世代の学生が話す新学期や下宿の話は、大変説得力があり、関心事のようでした。食堂や購買書籍部について担当者から報告されました。生協による充実した食堂のメニューや夕食提供、パソコンセットアップ支援や相談窓口なども、学生たちが安心できるように設けられていました。

鳥取から来られた保護者が休憩時間に学生委員さんに下宿のことと相談。「若い人が何を考えているのかが分かっていいですね。安心できます。」と保護者の方の感想でした。昨年秋に作成したお揃いのピンクのパーカーはここへ行っても目立ちWINDYの存在感と結束役に役立っているそうです。WINDYに入って「大変充実している」と新2回生の学生が口をそろえて言われることが印象深かったです。学生委員力作の「NARA TEKU MAP」は大学界隈の飲食店・医療機関・観光地などあらゆる情報が掲載されています。



労済生協におじゃましました

女性のための防災セミナー

～自助ができてこそ共助の力が発揮できる～



受付の様子

東日本大震災から丸2年が経とうとする2013年3月9日(土)の午後、ホテル日航で、奈良県労働者共済生活協同組合(全労済奈良県本部)(以下、労済生協)による「女性のための防災セミナー」が開催されました。

労済生協では、毎年、“防災カフェ”を開催され、市民への防災意識を高めるイベントをされています。今年は、新聞、TVなどでも活躍中の国崎信江さん(危機管理教育研究所、危機管理アドバイザー)の講演会が行われ、会場には女性を中心に51名の方が講演に聞き入りました。中にはご夫婦、子ども連れの方もおられ、危機感を持たなければならぬと改めて問い直す切実な内容でした。

「私が守る!我が家の防災対策」

東南海・南海の大地震は必ず来る!

講師の国崎さんは、人生をかけて防災対策をしてきたと挨拶されました。「ここにいるみなさんは、30年以内に震度6弱以上の地震に見舞われる確率が非常に高い。日本列島は東日本大震災以降歪んだままで地震活動期に入った。南海トラフの地震は国難をもたらす。奈良県も東南海・南海地震防災対策推進地域に指定

されており、大地震から免れられないのに意識があまりにも低いです。」と警告されました。阪神淡路大震災の再現映像を改めて見て、高速道路もビルも倒壊する揺れの大きさに改めて恐怖を覚えました。「この揺れの中であなたは自分の命を守れますか?」の問いかけに会場は沈黙。

会場は女性を
中心に51名



“自分の命は自分で守る”

『自分の命は自分で守る。自分の食事は自分で調達する』この当たり前のことが災害時にはできなくなり行政に頼る意識になる。行政も被災している。この意識こそ変えなければ。」とも指摘されました。「意識を震度7に対応できるレベルに引き上げること。まずは、自宅の耐震性を高めること。耐震工事には補助金が出ており、あるうちに活用してほしい。今の出費をためらうことで失うことの方が大きいことを覚えてほしい。対策としては、なるべく室内に物を置かない。すべて収納し、家具はすべてストッパーや壁に固定。地震発生時は筆筒もテーブルもテレビもフライパンも皿もすべてが凶器。ヘルメットを各自用意し、日頃から頭とくび(頸動脈)と手首を守る意識を。布頭巾では頭蓋骨を守れない。『ダンゴ虫』(体を丸める姿勢)が唯一潰された家屋から脱出できる姿勢。避難所ありきではなく、自宅に1週間から10日分の食料の備蓄を。カセットコンロと鍋があれば十分に調理できる。非常用の食料を買うのではなく、日頃の買い物で少し多めに買っておけば、10日分の食料は賄える。まずは冷蔵庫内の食料から食べ、冷凍庫内、最後に非常食と移ればよい。サンドイッチが一番食べやすい。着て逃げられるベストタイプの着用を。応急処置を身につけて。常緑広葉樹が防火帯になる」と真に迫る具体的な防災対策を教えてくださいました。



防災グッズの展示

メモ

「人間は自分の体重の4倍以上の荷重が胸部に強く圧迫した場合、70%以上の方が10分以内に死亡する。」

電子レンジ15kg、炊飯器4kg、洗濯機60kg、冷蔵庫100kg、ブロック塀1トン、自動車販売機200~800kg。子どもの体重は軽く、家の中でどれも凶器になる。

昨年3月に奈良県文化会館にて防災セミナーで展示など出展した際、市民の防災意識をもっと高めようと東日本大震災2年目を意識して企画されました。家族を守り、子どもを守るといった女性の視点から企画され、ホテルで開催しケーキと飲み物もお出しする工夫もされ、申込の反応は良かったとのことでした。すまいと暮らしの防災保障点検運動につなげていきたいとのことでした。

低炭素の地域づくり戦略会議・奈良(第3回)

(主催：サークルおてんとさん、奈良県地球温暖化防止活動推進センター、気候ネットワーク)

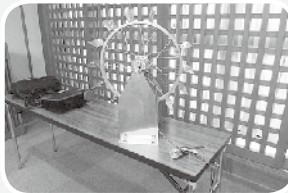


2013年2月12日(火)奈良県経済倶楽部5階にて、低炭素の地域づくり戦略会議・奈良(第3回)が年度内最終回として開催されました。県複数課、奈良市、橿原市、生駒市、平群町、斑鳩町の担当者や温暖化防止活動推進員、NPO、市民、研究者、生協など様々な立場の方47名が参加されました。県内の再生可能エネルギー別導入ポテンシャル量と課題について県から報告があり、バイオマスについては、県内には大きな賦存量があり他府県の事例から可能性を気候ネットワークが報告。県内で動き始めた具体例(吉野町ピコ水力発電、柳生マイクロ水力発電、透過型太陽光パネル)の報告後、3つ(太陽光・バイオマス・小水力)に分かれて具体化に向けグループトークを行いました。情報共有と具体化に向けた課題などが各グループで出されました。

太陽光グループでは、行政の方が多く参加され行政内部での“市民ファンド”の勉強会開催につながりました。



吉野町の手作りピコ水車(下)

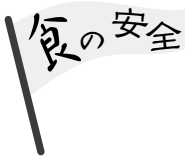


「バイオマス」の事例が少なく情報把握が出来ていません。「小水力」では、住民参加のモデル化や奈良小水力協議会への発展の期待が出され、情報交換の場の必要性が出されました。「太陽光」では、公共施設の“屋根貸し”や市民ファンド、農業でのソーラーシェアリングモデルづくり、商店街へのパネル設置による活性化、市民共同発電所作りなどへの期待が出されました。進めるためには課題は多いですが、具体化できるところは進め、次年度も会議を開催したいと遊津奈良県地球温暖化防止活動推進センター長の挨拶があり今年度は終了しました。

シンポジウム「COP18の結果と日本のエネルギー政策」

2013年2月3日(日)大阪産業創造会館にて、温暖化防止ネットワーク関西(CASA共催)主催のシンポジウム「COP18の結果と日本のエネルギー政策」が開催され、近畿圏の生協連、生協、NPOなど約50名が参加しました。①「COP18の結果と今後の課題」(高村ゆかりさん:名古屋大学大学院環境学研究科教授)②「福島原発事故とエネルギー政策の現状」(伴英幸さん:原子力資料情報室共同代表)③「原発の即時廃止と25%削減の両立は可能～CASA2020モデルの検討結果」(早川光俊さん:CASA専務理事)の3つの報告がありました。

ダーバン(COP17)で2020年までの大きな枠組みができ、今回のドーハ(COP18)で2015年に2020年から始動する法的文書を採用することが決まり、2015年までの作業計画が決まりました。日本は、ロシア、ニュージーランド同様(カナダは離脱)京都議定書の第2約束期間の目標は持ちませんが、離脱したわけではありません。カンクン合意(COP16)の下、隔年報告書の提出(2014年1月1日までに報告書提出)と専門家審査を受け、多国間評価を受ける必要があります。京都議定書ができたころとはステージが変化し、2020年に向けた交渉は「ルール作り」から「実施と検証」の段階に来ています。このままでは、カンクン(COP16)で合意された2℃未満の上昇に抑えることにはできません。国際交渉が難航している中でも、世界では温室効果ガス抑制の方向に動き、再生可能エネルギー市場は確実に拡大しています。排出枠取引制度は日本以外では活発になっており、2013年以降の日本のエネルギー政策づくりが進んでいませんが、積極的な温暖化対策の施策を望んでいるとの報告があり、会場参加者から同様の意見が出されました。



第19回 奈良県食品安全・安心懇話会

2013年3月11日（月）午後、猿沢荘（奈良市）にて今年度2回目の懇話会が開催されました。

平成25年度奈良県食品衛生監視指導計画案については3名11件の意見があり、県の見解が出され議論されました。食品中の放射性物質検査の検体数67の数を増やすべきという要望や、中核市の奈良市との検査の連携の可能性、リスクコミュニケーションの手法などについて意見交換されました。昨年10月に実施した食品に関するリスクコミュニケーション「食品中の放射性物質対策について学ぶ」の開催結果については、おおむね好評だったという報告があり、委員から出されたテーマ（食物アレルギー、食品表示、衛生管理、食品ロス、フードバンク）についての県関係課からの情報提供や報告があり意見交換がされました。

また、県内企業の食品衛生管理を強める視点から、奈良県版HACCPについては、HACCP研修会を進めてきた奈良県食品衛生協会とならコープの実績を踏まえ、奈良県HACCP研究会設立構想案が委員から提案され、今後も検討することになりました。

平成24年度なら食に関するリスクコミュニケーション

食について考える 「安全・安心な社会を目指して」

北野 大氏 講演会

2013年3月18日（月）午後なら100年会館中ホール（奈良市）にて、奈良県の主催で開催されました。定員400名の会場はほぼ満席。北野大氏のユーモアを交えたご講演と、県保健環境研究センター大前所長がファシリテーターになり質疑応答コーナーが展開されました。

食の安全とは、「食の防衛、食の安全、食の安全保障」があり、日本の食の問題点から旬産旬消、地産地消、和食への回帰、倫理的問題、当事者意識の5つのアクションを提案。ケネディーの消費者に保障すべき4つの権利に照らし、現在の日本の安全性の評価方法や毒性試験（食品添加物、農薬）について安心できる状況であると話されました。

「20世紀は安全を求め、21世紀は安全安心を求める世紀。客観的な事実で安全は説明できるが、自らの理解に基づく主観的な事実から安心は得られる。それをつなぐのがリスクコミュニケーションであり信頼。それがないと安心は得られない。閾値に対する見解が分かれている放射性物質の低線量被ばくについて今回は言及しなかったが、現在の国の基準は厳しく安全と言えると思う。しかし不安を抱えている人に対して否定してはならない。」と会場からの質問に答えられました。



写真提供:奈良県消費・生活安全課

「平成25年度食品衛生監視指導計画案」に対する意見を提出

小さな子どもをもつ保護者の不安と消費県であることを考えると、放射性物質検査の検体数は67検体よりも多くすること。厚生労働省によりBSEに関する国産牛及び輸入牛の対策の見直しが進められる中で、前年同様のBSE検査数を行うことについて、広く県民に対して科学的な情報を十分に提供する必要があること。また、食品中の放射性物質汚染に関しては、むやみに怖がることを抑えるための防御知識の伝達と科学的な根拠を示すなどのリスクコミュニケーションを細やかな単位で行うことの必要性などを要望しました。



北野大氏と大前所長のコーナー

つながる連帯・友好の輪

近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会

2013年2月27日（水）京都のせいきょう会館4階にて近畿農政局と近畿地区の6生協府県連との意見交換会がありました。近畿農政局からは小栗邦夫農政局長はじめ中山直子企画調整室長、和田勉消費・安全部長ほか課長・課長補佐・専門官の計11名、生協からは、滋賀、大阪、奈良、兵庫、和歌山、京都、関西地連から計19名が参加しました。

「農政局の戦略的な取り組みについて」「未来につなぐ食育プロジェクト」「環境保全型農業の推進」について情報提供があり、その後、各生協連から食育を中心に事例報告がありました。

意見交換では、各省庁間の連携や生協との連携を期待する意見や、有機農産物が思うように売れない課題、大学生の貧しい食生活の現状と支援策などで意見交換しました。



関西電力の電力料金値上げについて

関西電力は2012年11月26日に2013年4月からの電気料金の値上げ申請を行いました。規制分野（従量電灯A・多くの家庭）については11.88%、自由化部門については19.23%の値上げを申請。規制分野については、資源エネルギー庁「電気料金審査専門委員会」や消費者庁消費者委員会の「公共料金等専門調査会」で申請内容を議論され、「電気料金審査専門委員会」の査定方針が出され、その後、「物価問題に関する関係閣僚会議」を経て、最終的に経済産業大臣が認可を行います。その間に広く一般から意見を聴取する公聴会（経済産業省主催）（写真右下）や「国民の声」募集（資源エネルギー庁）、意見交換会（消費者庁主催）、関西電力との意見交換会（関西消費者団体連絡懇談会以下、関消懇主催）が行われ、奈良県生協連は、関消懇のメンバーとして昨年末から勉強会や意見交換会などに参加し、専務と事務局が消費者としての意見陳述や「国民の声」に意見を提出しました。

「総括原価方式」*による積算根拠の妥当性や不透明さ、原子力発電のリスクと安全対策費や放射性物質のバックエンド費用、損害賠償の保険料など莫大なコスト負担のこと、原子力発電依存の経営構造からの転換への要望、原価に含む経費（役員報酬などの人件費、燃料費など）の削減努力の不十分さの指摘などが多くの参加者から出されました。

今回は査定方針が出された後も、さらに消費者委員会の意見交換会（3月11日）を経て検討が加えられ経産省と消費者庁の協議を踏まえて、値上げ幅は圧縮されました。

*総括原価方式

公共料金が決められる際に用いられる考え方の一つ。料金を、商品やサービスを提供するのに必要な原価をちょうど賄うだけの収入を得る水準に設定すること。つまり、事業運用にかかる費用と適正な事業報酬の和を適正な原価とし、設定するもの。電力料金は政府が電気事業法で定めている。「事業報酬」と呼ばれる一定の利潤も費用に上乗せされるため、安定経営を支える制度になってきた一方で、電力会社は地域独占で競争が少ないため費用の削減努力につながらないという指摘もある。



公聴会（於：大阪府合同庁舎）
多くのマスコミが報道。右手奥が関西電力、中央の議長は電気料金専門委員会委員長安念教授。専門委員が4名参加。

ご案内

未来をつむぐシンポジウム

2020年への挑戦

～奈良から。協同セクターの連携が未来をつむぐ～

2012年は国連が定めた国際協同組合年として、貧困削減などに対して協同組合が発揮する役割に世界が注目しました。国内でも協同組合間が連携して地域を支える取り組みが開始されました。ICA（国際協同組合同盟）は、すでに世界の協同組合に“2020年への挑戦”を提起しています。私たちはこれらを踏まえ、2012年の取組みを次代に生かすため、奈良で始まりつつある協同セクターやNPOの連携を通して“ひと・まち・暮らし”の姿を探っていきます。



◆ 基調講演

賀川 督明（かがわ とくあき）さん

“未来をつむぐ～協同組合のこれからを探る”（仮題）

◆ パネルトーク

協同セクターが支える“ひと・まち・暮らし”

①ならコープ ②奈良県医療福祉生協 ③奈良NPOセンター ④近畿ろうきん

◆ 開催日

2013年5月18日(土) 午後1時～4時30分

◆ 会場

奈良ロイヤルホテル

◆ 定員

150名まで

◆ 主催

奈良県生協連、近畿労働金庫奈良地区統括本部

◆ 協力

ならコープ、奈良NPOセンター、奈良県医療福祉生協、奈良県労福協、全労済奈良県本部

公告 奈良県生協連第24期通常総会開催について

当会 定款第49条にもとづき、奈良県生活協同組連合会第24期通常総会を下記の通り、開催致します。

記

1. 日時 2013年6月22日（土） 通常総会 10：00～12：30
（終了後、懇親会 ～14:30）
2. 会場 猿沢荘3階「わかくさ」 奈良市池之町3 ☎0742-22-5175
3. 議案
 - 第1号議案 2012年度事業報告・決算関係書類承認の件
 - 第2号議案 2013年度事業計画及び予算案決定の件
 - 第3号議案 役員選任の件
 - 第4号議案 役員報酬決定の件
 - 第5号議案 議案決議効力発生の件

4. 代議員の選出について

会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、会員生協の定数は3人とします。

奈良県生協連第6回理事会報告

3月7日(木) 奈良県文化会館

【主な審議事項】

- (1) 2013年度（第24期）県連総会の準備等に関する件（2次）
- (2) ポストIYCの取り組みについての件
- (3) その他事項の件
 - ①日本生協連第63回総会代議員、関西地連運営委員推薦について
 - ②「アースデー2013 in なら」共催と参加要請について

県連日誌

1月

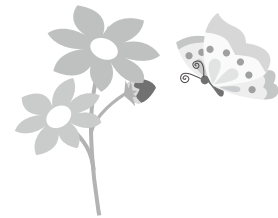
- 4日 県庁新年ご挨拶訪問
- 10日 奈良県生協連第5回理事会
- 15日 日本生協連政策討論集会
- 16日
- 17日 関電値上げ問題意見交換会(消費者庁)
- 22日 関電値上げ問題意見交換会(関消懇)
- 27日 新しい公共の場づくり：ボランティアリーダー養成講座
- 28日 関電値上げ問題公聴会(経済産業省)
- 28日 なら消費者ねっと準備会議
- 31日 地連運営委員会・県連活動推進会議

2月

- 3日 温暖化防止ネットワーク関西シンポジウム
- 6日 地方消費者グループフォーラム
- 9日 なら消費者ねっと設立総会・シンポジウム
- 12日 第3回低炭素の地域づくり戦略会議・奈良
- 14日 県環境審議会
- 18日 県消費生活審議会
- 20日 地連男女共同参画委員会
- 21日 KCs 検討委員会
- 27日 近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会

3月

- 1日 なら消費者ねっと運営委員会
- 7日 奈良県生協連役員研修
- 7日 奈良県生協連第6回理事会
- 8日 近畿地区生協府県連協議会
- 11日 関電値上げ問題意見交換会(消費者委員会)
- 12日 近畿地区生協大規模災害協議会
- 16日 ピースアクション in なら
- 20日 新しい公共場づくり；防災フェスタ
- 31日 奈良県医療福祉生協第1回創立祭



お知らせ

ご案内

アースデー 2013 in なら

開催日時

平成25年4月21日(日) 10時～15時

会場

国営飛鳥歴史公園 石舞台広場

内容

パネル展示、模擬店、環境関連団体など出展、吉野特産物コーナー、体験コーナー、資源循環型コーナー、フリーマーケット

(主催 ならコープ 共催 奈良県生協連)

編集後記

「人を重んじ参加と協同で願いを実現する協同組合」、「全ての人の幸せを願う平和文化」。続けて2つの講演を聴きました。1年7か月でようやく歩き始めた孫の姿を見ながら、ゆっくりでも人とうちがっついていても、お互いを認め合い尊重しあえる世の中でありたいとつくづく思いました。(由)

復興支援ソング「花は咲く」の歌詞、聞くたびに、ジーンと心に沁み涙が止まりません。「叶えたい夢もあった、変わりたい自分もいた、わたしは何を残しただろう…」被災された方に多くの花が咲きますように。(順)

1万8千人以上の死者・行方不明者という未曾有の被害をもたらした東日本大震災から2年。今なお多くの行方不明者の捜索が続き、約31万5千人の方が避難生活をされています。「3・11を忘れない」という思いを、これからも持ち続け支援を継続していきたいと思えます。(和)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535

FAX 0742-34-0043

URL <http://www.narakenren.coop/>